

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第62号

2022(令和4)年5月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

解決者ノ出ヅルヲ待ツ

— 綿殻の薬効 その4 —

前号で紹介した『本草綱目拾遺』(清の乾隆30年、1765年刊)には、「草棉」の項において綿殻の薬効を含め、綿の花、種の効用について詳細に論じられています。以下に示すのは同書の翻訳本である『新註校定国譯本草綱目』(春陽堂書店、昭和7年初版、昭和52年新註増補版)全15冊のうちの第13冊からの引用です。第13-14冊に『本草綱目拾遺』が収められています。

「綱目(編註:『本草綱目』1596年頃刊のこと)には、木棉の条下の註に『棉に二種あつて、木に似たものを古貝と名け、今は訛つて吉貝といふ。草に似たものを古終と名ける』とある。これは今俗に棉花と呼ぶ、乃ち草棉である。按ずるに、代醉編に、棉花の種は番使黄始が伝へたもので、宋末に始めて江南に入ったとあり、沈黄門炤は、番中には青黄白の三種あつて今特に伝つてゐるのはその白いものだけだといつたが、実は江浙は草棉を多く種芸し、木棉は罕に見るが、その草棉中にもやはり黄色のものがあるから、尽くが白いものばかりではない。薬に入れては白いものを勝れたものとする。綱目には棉花油はあるが、花、及び子(編註:種のこと)の功用の説明を悉してないから補つて置く。

百花鏡に云く、花は血を止め得る。殻は膈を治し得る。膈食、膈気には棉花殻を用ゐ、八九月採り、多少に拘らず煎じて、茶に当てて飲む。三日にして癒える。鷺を食ふことを忌む。

薬性考に云く、草棉は甘し、温なり。寒を禦ぎ、冷を卸ける。焼灰は血、凍瘡を止め、穩子熱に敷き、虚を補し、腰を暖め、損油毒昏目を治し、癬疥等に塗る。

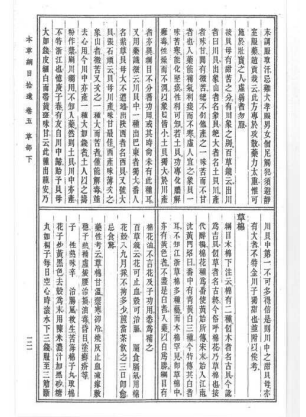
子 性は熱、味は辛である。腸風を治す。救生苦海一棉子丸。棉花子を取つて黄黒色に炒り、殻を去つて末にし、陳米の濃汁に黒砂糖を加へたもので桐子ほどの丸にし、毎日空心時に三錢を滾水で服す。三舂まで服すれば根を断つ。…」(第13冊、328~329頁)

つづいて、同書では上記紹介部分の8倍ほどの分量を割いて(337頁まで)、綿の薬効および処方をも具体的に記しています。また、頭注において「溝口氏ハわたノ莖及ビ根ノ水浸液ヨリ子宮緊縮性ヲ有スル結晶性物質ヲ得テ『エクポリン』ト命名セルモ其性状詳カナラズ。種子ハ約20%ノ脂肪油ヲ含有シ主トシテばるみちんヨリ成り少量ノおれいん等ヲ混ズ。又種子中ニハ『ゴシポール』ト称スル『エノール』性ノ有毒物質(結晶)約0.6%ヲ含有ス。…新鮮ナル根(米準局方)ハ通経薬トス、用量二瓦。種子ハ母乳ノ分泌ヲ催進スル効アリ、煎剂(5.100)ヲ用フ。…」と、溝口龍三「ワタの成分エクポリンの化学的研究並に生理的作用に就て」『衛生試験所彙報24』(厚生省東京衛生試験所編、大正13年1924)掲載の分析を紹介しています。

このように『本草綱目拾遺』、『新註校定国譯本草綱目』は、綿殻の薬効および綿の効用について考える上で極めて貴重な文献であることがわかりました。

なお、訳本校定者の一人である牧野富太郎は、その序言において「今其収録シアル品物ヲ見テ行クウチニハ精粗解決シ得ベキモノモ亦無キニシモアラザレドモ然カモ其十中ノ七八ハ容易ニ裁決ノツカヌしものデアル…。他日其解決者ノ出ヅルヲ待ツコトニシタ…」(第13冊2頁)と識しています。

ぜひ、その解決者の出づるを願ってやみません。



『本草綱目拾遺』

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和年3月24日~令和4年5月25日)

北海道1、秋田県1、山形県1、茨城県1、埼玉県2、東京都1、神奈川県1、長野県3、愛知県1、京都府1、大阪府2、兵庫県3、奈良県8、和歌山県1、福岡県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和4年3月24日~令和4年5月25日)

メールを含む各種相談件数6、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数4件7名(イベント参加者除く)



《綿の栽培記録 2022》－ 令和4年度版 その2－

天理市乙木町における梅田の感覚的気象観測データ(令和4年3月25日～5月21日)は、Livedoor Blog「綿の栽培記録」(H. A. M. A. 木綿庵のHPのホームページにもリンクあり)をご参照ください。

今年は5月3日に1号畑、7日に6号畑、8日に7号畑と11号畑にそれぞれ綿の種を蒔きました。今年の植え付け状況は以下のとおりです。

1号畑では33メートル(m)畝に洋綿39穴、19m畝に和綿赤木種30穴、19m畝に和綿青木種30穴、19m畝に和綿青木種72穴(株間を詰めて二条植え)。6号畑では33m畝を3本立て、各畝に和綿赤木種52穴、52穴、54穴。7号畑では32m畝を2本立て、各畝に和綿赤木種11穴、河内綿11穴、ブータン綿11穴、真岡綿6穴、大島綿5穴。洋綿アブランド9穴、品種確認中9穴、伯州綿11穴、和綿青木種9穴。11号畑では32m畝1本を立て、洋綿アブランド40穴。

播種後約2週間以内に、7号畑のブータン綿、品種確認中の綿を除き、ほぼ全穴で発芽を確認しました。

《公開イベント：綿の種まき&スピンドル講習会 — 令和4年5月3日》

今年は3年ぶりに、綿の種蒔き作業を公開イベントとして実施。1号畑にて午前10時30分より開催。8グループ11名(スタッフ含)の方にご参加いただき、播種作業は要領説明も含めて50分ほどで終了しました。その後、ひきつづいて希望される方を対象に、木綿庵特製簡易スピンドルを用いての糸紡ぎ講習を実施しました。ご参加くださいましたみなさん、ほんとうにありがとうございました。

写真は左から、前日より水に浸けおいた種、作業開始時、播種時、5月22日時点の様子です。



《草木染め：紅花の若菜染め — 令和4年5月17日》

紅花の若菜(間引き菜)700gを水60lで15分煮出して染液をとり、木綿100%のハンカチ2枚と手提げバッグ、手紡ぎ糸を染めました。媒染には草木灰の灰汁を用い、ハンカチ2枚のうち1枚には濃染処理剤ディスポンで下処理を施し、染まり具合を比較しました。作業直後はディスポンを用いたハンカチはくすんだ黄色、もう一枚の方は鮮やかな黄色に染まりましたが、乾燥させると前者の色は落ち着き、後者のハンカチはほとんど色が褪せてしまいました。



【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：令和元年, 2019年産。丹羽正行氏による打ち綿)
令和4年3月24日～令和4年5月25日(作業実日数31日) 糸の総量7.6g (2.0匁) 総時間24分
※1分間≒0.317g 1時間≒19.2g (5.1匁)

【研修等の記録】

- 令和4年05月01日 セブンイレブン天理成願寺町店にスナップエンドウを初出荷(今季は12回出荷)
- 令和4年05月03日「綿の種まき」(1号畑)。3年ぶりに公開イベントを実施。8組11名の方が参加下さる。
- 令和4年05月07日「綿の種まき」(7号畑)。6組9名の方がお手伝い下さる。
- 令和4年05月11日 なら歴史芸術文化村にぎわい市場(天理市)に「紅花若菜」を出荷(今季1回のみ)
- 令和4年05月13日 藤田美術館(大阪市都島区)のリニューアルオープン展「阿傳曜花」を見学、鑑賞。